

事業所における自己評価結果(公表)

公表: 令5年3月10日

事業所名 すみくら神辺児童発達支援事業所

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	2	1	ドアのない出入りにパーテーションを設置できるようにしている。	園庭がないため、園外への活動を増やすよう工夫している。
	2	職員の配置数は適切である	1	2	個別支援の必要な子どもの受け入れの日は人数制限を行っている。	基準は満たしているが、よりよい支援のために職員を増やし個々に応じた支援を提供できるようにしたい。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	2	1	事業所内の段差をなくし、子どもが分かりやすいように動線を工夫している。	子どもの手の届かない所へ鍵をつけているが、カづくで開けてしまうため、しっかりした鍵をつけてほしい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	2	1	個々に合わせてパーテーションで空間を作り、目的に合わせて変更している。常に身の回りの玩具や机、椅子などは消毒するようにしている。	
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	3	0	支援後に必ず、子どもの様子など職員同士でフィードバックする時間をとり、環境を整えている。	
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	3	0		評価結果をもとに、意向を把握し、改善に繋げていきます。
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	2	1		
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	1		
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	0	月に1度職員研修を行い、療育現場に必要な職員としての資質、障害についての知識や支援方法を学んでいる。また、施設外研修にも参加し理解を深めている。	
	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	3	0	日々の子どもの姿を記録し、課題や支援内容を職員間で検討している。また、意向書や面談を行い、保護者のニーズを確認し支援計画を作成している。	
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	3	0		事業所内で統一したアセスメントツールを使用している。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」、「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	3	0		個別支援計画には、子どもの支援目標や支援方法を記載している。発達や状況に応じて見直しをしていく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
適切な支援の提供	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	3	0		職員会議などで、個別支援計画に沿った支援などを職員で確認している。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	3	0	月案を作成し、職員全員で立案会議を行い実行している。	
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	3	0	社会性や理解、粗大や微細など、偏りが無いようバランスよく組み立てたプログラムを提供している。	
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせて児童発達支援計画を作成している	3	0		
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	3	0	朝礼時に職員の動きや役割、子どもの情報共有など行っている。	
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	3	0	支援後には必ず振り返りを記録に残し、気づきなどを出し合って改善していけるよう職員間で話している。	
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	3	0		
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	3	0		半年に1度見直しを行い、保護者の意向を含めて支援計画を作成している。
関係機関や保護者との連携関係機関	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	3	0		
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	3	0	保健師やこども発達支援センター、必要に応じて保育所や幼稚園と連携を行っている。	
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	0	0	医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもの受け入れは行っていない。	
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	0	0	医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもの受け入れは行っていない。	
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	3	0	保護者の意向に応じて、園の先生に来ていただいたり、電話で連携を行い情報を共有している。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	0	3		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
や保護者との連携	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	2	1		
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある	0	3		
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども子育て会議等へ積極的に参加している	1	2		
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	3	0	連絡帳や送迎時、子どもの状況をお伝えしている。支援計画の課題や支援についても伝え、共通理解できるようにしている。	日常の状況説明や相談は行っているが、さらに保護者が相談しやすくなるよう職員との信頼関係を深めて、声かけをしていくようにする。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	2	1		
保護者への説明責任等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	3	0		
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	3	0		
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	3	0		
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	0	3		
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	3	0		
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	2	1		
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	3	0	鍵付きのロッカーを使用している。保護者の同意を得てから、写真の使用や関係機関との連携を行っている。	
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	3	0		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	0	3		
41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	3	0		洪水を想定してのマニュアルは作成しているが、保護者に周知するには至っていない。今後訓練の実施を含めて計画していく。	
42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	3	0	毎月避難訓練を行っているが、保護者に周知できていない。		

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
非常時等の対応	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	3	0	契約時に調査書の記入をお願い確認している。こどもの状態を把握し、職員間で共有している。	
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	3	0		
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	3	0	事故を防ぐためにヒヤリハット報告書を記入し、職員間で共有している。	1か月後にはヒヤリハットの見直しを行っていく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	3	0		
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	2	1		

○この「事業所における自己評価結果(公表)」は事業所全体で行った自己評価です。